



インタビュー
Interview

手にする人に元気を与える
刀を作りたい
輝いている人



現代刀職展作刀の部で優秀賞・新人賞を受賞
富岡 慶一郎【刀匠名：慶正】さん（黒尾）

市内で刀鍛冶として活動し、現代刀職展作刀の部で優秀賞と新人賞を受賞したのが、富岡慶一郎さんだ。幼い頃からものづくりが好きだったという富岡さん。美術大学の卒業時には、デザインか刀鍛冶になりたいと悩んだ末、企業のウェブデザイナーとして就職。要望に沿った作品を作り続ける中で、物足りなさを感じ始めたそう。方向転換を決めた理由について聞く、「なりた職業の一つであった刀鍛冶になれば、自分だけの作品を作ることができる。今からでも挑戦しようと思った」と教えてくれた。

刀鍛冶になるために全国の刀剣職人を巡り、宮崎県の松葉國正さんに弟子入り。4年間修業を行い、刀鍛冶になるための試験にも合格することができた。松葉さ

んのもとで高度な技術はもちろん、刀鍛冶としての心構えも学んだという。大きくて派手だという師匠の作風は、富岡さんの作品にも引き継がれている。

現在は、7月に完成した自身の工房で作品作りをそしんでいる。「刀鍛冶は地域や環境に恵まれなければ継続が難しい職業。地域の皆さんに刀鍛冶職人の存在を知ってほしい。気軽に工房へ足を運んで見学をしてもらいたい」と話す。

今後の目標については、「手にすると元気になる、生きる力が湧いてくるような力強い刀を作りたい。そのためにも、楽しく作品づくりを続けたいと思うので、皆さんに見守っていただければ」と笑顔で話す。富岡さんの魂が込められた作品は、これからも多くの人に力を与えるだろう。

愛情を注がれた菊が咲き誇る

菊花展表彰式

11月5日、カミガツジプラザで菊花展の表彰式が行われました。表彰にあたり市花の会会長の熊田豊子さんは、「台風や猛暑を耐えきって咲く作品を見てうれしく思います」とあいさつ。各部門の受賞者に賞状とトロフィーが授与されました。

菊花展は、10月21日から11月11日まで開催。60回目を迎えた今回は、市内在住・在勤者や市花の会会員から76点（370鉢）の応募がありました。

受賞者は次の通りです。【敬称略】

上村喜久子、小野養平、片岡太郎、狩山忠義、狩山頼子、川上久志、川上みな子、熊田豊子、笹部勲、笹部環、角田頼男、園田勇、月本昭、月本典子、土屋守、三宅精一、三宅房子、第二太陽保育園、山田幼稚園、きよね認定こども園、清音小学校



① 表彰された受賞者ら ②60回を記念して制作された集合花壇



カメラ フォトニュース まちの話題

●ミニフォト

交通安全をポスターで表現



市役所で10月14日、市内の小・中学生から募集した交通安全ポスターの表彰式が行われました。最優秀賞を受賞したのは、常盤小学校3年の横手文哉さん。危ない運転が減ってほしいという気持ちでポスターを制作したそうです。

体を動かしながら交流



10月27日、市長杯グラウンドゴルフ大会が市スポーツセンター多目的広場で開催されました。約200人の参加者が競技を楽しみ、江口英子さんが26打で優勝、近藤義則さんが30打で準優勝の成績を収めました。

温かいあかりに包まれて



商店街通りで11月7日、あかりおひろいが開催されました。短冊に想いや願いを込めてあかりに祈る、想いおひろいも同時に開催。訪れた人は、あんどんの光に照らされたいつもの違う街並みを楽しんでいました。

三上さん 100歳おめでとう



三上九郎さん（久代）が10月23日に満100歳の誕生日を迎えられ、市から記念品が贈られました。市役所などに勤め、定年後は畑や趣味の俳句を楽しんでいたという三上さん。長寿の秘訣は、感謝の心を忘れないことだそうです。

絵てがみで思いを伝える



パートナーや家族への思いを表現した作品を募集する絵てがみ展の受賞者が決定しました。最優秀賞を受賞したのは、金村辰子さん。優秀賞は、山本英子さん、山本邦子さん、北村恭子さん、小坂悦子さんの4人が受賞しました。

秋を見つけるウォークラリー



11月8日、清音福祉センターを発着として吉備の里ふれあいウォークラリーが開催されました。市内の小学生ら29チームが参加。チェックポイントでクイズやゲームをしながら、秋晴れの清音地区を巡っていました。